

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成 30 年 9 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人  
〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
一般社団法人 日本病院会 通信教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <http://www.jha-e.com/>  
受付時間 9:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月 1 日  
定 価 1 部 150 円 1 カ年 1,600 円(税込・送料込)  
郵便振替 00190-5-396045  
名 義 一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## 言葉の大切さ

遠藤 希之

仙台厚生病院 病理診断・臨床検査科  
臨床検査センター長

皆さんもご存知のとおり「診療情報管理士」という職名は 1996 年から使われるようになったと言えます。そして 2000 年の診療報酬改定で「診療録管理体制加算」が設けられました。まだまだ診療情報管理士さんが少ないその約 20 年近く前、自分はとある大学病院の病理部に「病理診断医」として勤めていました。

ある年、医療系の専門学校を出たての初々しい女性が事務職として着任しました。新卒のため医学用語もまだそれほど馴染みがなかったのですが、問い合わせの電話などもわからないなりにしっかりとメモをとってくれるような一生懸命な子でした。

そうこうしているうちに、眼科の医師から依頼の電話がきたことがありました。眼球のぶどう膜炎の患者さんの、硝子体の細胞診検査を明日、大至急でやってもらえないか、という依頼でした。ぶどう膜炎は様々な原因で起こります。そして治療を急がないと失明の危険もある病態も知られているのです。そのため眼科医が急ぎの依頼をしてきたわけです。

電話を受けてくれたのが新人の彼女でした。いつものようにしっかりとメモをとってくれています。そのメモには「明日、ぶどう学園の焼死体の検査、大至急で」とありました。彼女の頭の中ではどのような状況が思い浮かべられていたのでしょうか。悪いな、とおもいながらも自分は大笑いをしてしまいました。

何を申したいのかというと、言葉というのは事ほど左様に重要だ、ということです。実は自分、基礎課程前期スクーリングで「医学・医療用語」の講義を担当していました（来年度から仙台会場での開催がなくなるとのこと、とても残念です）。講義ではなるべく「言葉の本質」や「言葉の由来」といったものを紹介し、生徒さんに親しみやなじみを持ってもらえるような話をしているつもりでした。

診療情報管理士通信教育を修了した暁には、皆さんなら、上記のような笑話を披露してくれることはないだろうと思います。とはいえちょっとした言葉の綾で誤解を招く事もあります。情報は様々な形で伝えられますが、やはり言葉が主体です。そのため特に医療系ではちょっとした言葉の行き違いが事故に繋がる事もあります。脅かしているわけではありませんが、あらためて「言葉」の重要性を押さえながら、勉学に励んでいただければと願っております。